

月刊ベトナム株情報

最終号

ユニテッドワールド証券



ベトナム株式市場の動き (10月～11月前半) 経済状況等

< 先月の市場から >

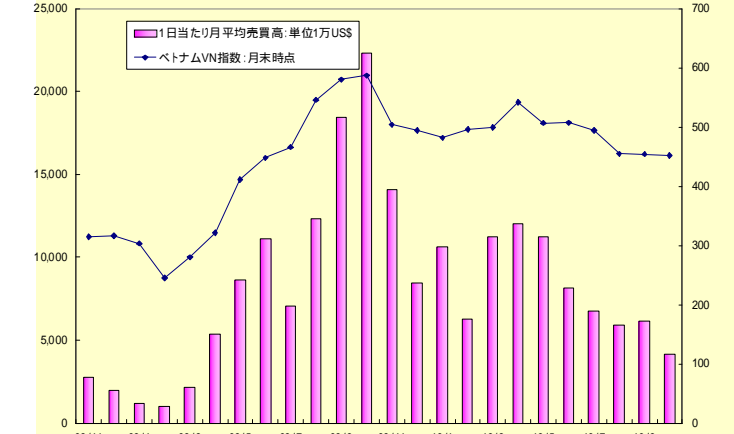
ベトナムVN指数とMSCI新興国指数 (2008/1/2を100として指数化)



10月のベトナム株式市場(VN指数)は9月以上に狭いレンジの動きとなりました。国内外の材料に対する感応度は極めて鈍く、450ポイントを中心に上下10ポイント程度振れただけで、売買金額も低調に推移し、10月は前月末比 -0.42% (9月は -0.12%) の452.63ポイントで引けました。

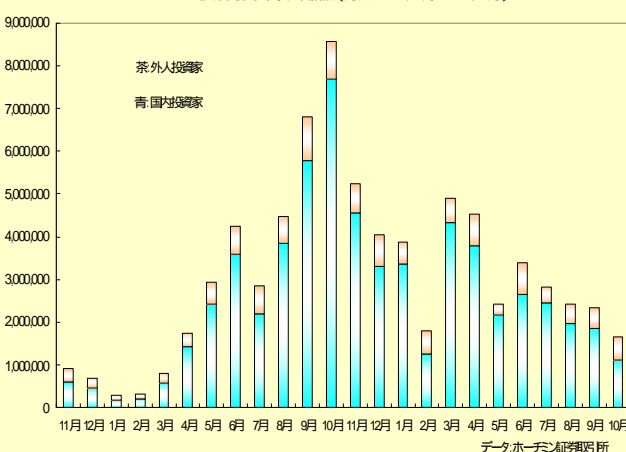
10月の市場は、前月の関心事でもあった、金相場(国内)の高騰とドン通貨の減価、インフレ懸念の二つが強まった感があり、国内の投資資金は株式市場からより遠ざかった模様です。前月もお伝えしたように、ベトナムの個人投資家は伝統的に、自国通貨(ドン)が減価してくると、「実物資産である金(ドル建て)」の取得、売りに走る傾向があり、10月は国際的に金先物相場が最高値を更新したこともあり、金(ドル建て)買い・ドン売りが加速するという悪循環になっています。10月の国内金相場は+7%、ドン通貨は米ドルに対して -3.6%(グレー市場)となり、結果的に「ドン資産である株式市場」への資金還流は起こりませんでした。また、予想内とは言え10月のインフレ率が高水準となり(次ページ詳細)、利上げが再認識されたことも、リスク資産である株式が見送られ、金が好まれる形になりました。

ベトナム株式指数と1日当たり平均売買金額(2008/11～2010/10)



10月の株式市場は9月と比較して騰落率こそほぼ変わらずでしたが、売買金額は大きく減少し、ホーチミン市場の1日当たり平均売買金額は前月比 -33.2% の41百万米ドルと今年最低となり、ベトナム株式市場が2年に及ぶ下げ基調から上昇に転じた2009年3月以来の水準となりました。主体となる国内投資家の売買金額は前述したような理由から4ヶ月連続で減少していますが、その逆に外国人投資家は、売買金額、買い越し額とも、4ヶ月連続で増加しています。実際、外国人投資家がこの膠着相場のなかで買い進めている市場を大型優良株は、VN指数を大きくアウトパフォーマンスしています(MSN +15%、DPM +13%、BVH +16%、FPT +8%など)。ベトナム株式市場の規模(ホーチミン市場の現在の1日当たり売買金額は、日本のジャスダック市場の1/3～1/2程度)から見て、今回の世界的流動性を背景にした投資マネーの流入は期待薄ですが、一部の海外投資マネーが継続して市場を下支えしているのは確実なようです。

ホーチミン証券取引所売買資金総額(月次:2008年1月～2010年10月)



11月に入っのベトナム株式市場は、引き続きのドン減価傾向、5日の利上げ(次ページ詳細)等から、中小型株に売りが目立ち始め、ややレンジを外れてボトムを確認していく展開となりそうです。目先では17日に、需給懸念の大きな要因であったPV Gasの超大型IPOに注目が集まります。無事に通過し、VN指数が430ポイントより大きく下振れしなければ、悪材料出尽くし感から、反転が期待されます。

< 経済指標 > 2010年1月～2010年10月

出所:ブルームバーグ

<ベトナム>	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	
鉱工業生産	+28.4%	+13.6%	+13.6%	+13.5%	+13.6%	+13.6%	+13.5%	+13.7%	+13.8%	+13.7%	*
輸出	+28.1%	+0.1%	-1.6%	+9.0%	+12.6%	+15.7%	+17.5%	+19.7%	+23.2%	+23.3%	*
輸入	+86.6%	+39.6%	+37.6%	+36.0%	+29.8%	+29.4%	+25.5%	+24.4%	+22.7%	+22.9%	*
消費者物価	+7.6%	+8.5%	+9.5%	+9.2%	+9.1%	+8.7%	+8.2%	+8.2%	+8.9%	+9.7%	
消費者物価(前月比)	+1.4%	+2.0%	+0.8%	+0.1%	+0.3%	+0.2%	+0.1%	+0.2%	+1.3%	+1.1%	

<資料>ベトナム統計局、データは前年同月比、*は年初からの累計値

< VN指数構成上位10銘柄のパフォーマンス > 2010年10月30日時点

出所:ブルームバーグ

社名	業種	指数内 ウェイト (%)	終値(ドン)	1カ月騰落 率(%)
バオ・ベト・ホールディングス	総合金融(保険)	8.98	64,500	+16.2
ベッティンバンク	銀行	0.52	19,200	+1.6
マッサングループ	食品	6.14	57,000	+15.2
ホアンアンザライ	不動産	5.13	79,000	+8.2
エクシムバンク	銀行	2.81	14,400	-19.6
FPTコーポレーション	通信	3.28	76,500	+7.7
ペトロベトナム化学肥料	化学	2.94	34,800	+13.7
ホアファットグループ	鉄鋼	2.56	39,200	+1.8
ペトロベトナム・ファイナンス	金融	2.41	21,700	+5.9
ペトロベトナム・ドリリング	石油・ガス	2.11	45,100	+3.9

ベトナム経済状況

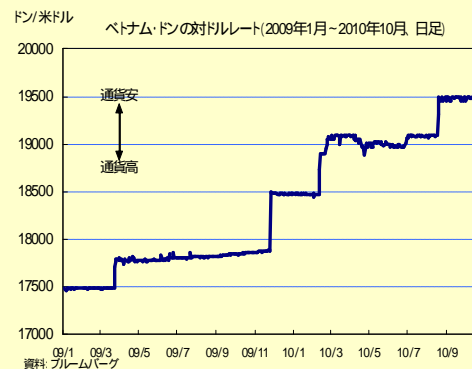
10月のベトナムのマクロ経済指標は、引き続き良好な内容でした。

10月のインフレ率(消費者物価指数)は、前年同月比+9.6%、前月比+1.1%で、前年同月比で高水準となりましたが、「インフレ率は7月にボトムを付けて以降は上昇していく」ことで関係者の認識は概ね一致しており、国内での悲観はなかったようです。直接的要因としては、ベトナム中部地区における夏からの悪天候(洪水等)が食品価格を押し上げていた模様です。今回のインフレ率を受けての直接的措置ではありませんが、ベトナム中央銀行は11月6日に、約11ヶ月ぶりに政策金利を現行の8%から9%に引き上げました。株式市場とは対照的に、個人消費を中心に拡大が続く実体経済を安定的に持続させるため、早めにインフレを抑制しようとするものです。

貿易赤字は、10月単月は11億米ドルと前月から拡大し、警戒ラインの10億米ドルを上回りました。9月よりは+25.7%でしたが(9月の貿易赤字額は前回発表された10.5億米ドルから8.7億米ドルへ訂正されました。下方修正は3ヶ月連続)、前年同月比では、-40%と改善しました。貿易赤字の縮小見通しに変更はなく、有力アナリストは、2010年通年は2009年より確実に減少して110億米ドルに収まるだろうとの予想を変えていません。

今後のベトナム株式市場

11月16日現在、VN指数は426ポイントで終わり、ここ2ヶ月以上続いたレンジを外れ、8月の安値423ポイントに並ぶ水準となっています。売りに傾きやすい内外要因が散見され下値模索が推測されますが、現地大手証券の間では、「そろそろボトムを打つ」との声が大きくなってきています。過去2度にわたる安値の420ポイントまでの調整、1日当たり平均売買金額(2009年3月以来)、割安指標水準(10月末のMSCI AsiaのP/Eは15倍なのに対し、VN指数のP/Eは10.5倍)等の要因に加え、季節的な政治要因が関係してくると見られています。一方で、国内経済の好調さは変わらないばかりか上方修正されている状況であり、株式市場と実体経済の大きな乖離がそろそろ均衡に向かうものと思われます。10月に相場全体(VN指数)が停滞するなか、代表的な優良大型株がVN指数をアウトパフォームし大きな上昇率を見せたことは、反転の重要な兆候と言えるのかも知れません。



この資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資対象となる有価証券の価値や投資から得られる収入は、証券価格の変動のほか、発行体の経営・財務状況の変化、金利や為替相場の変動やその他の要因によって変化する可能性があり、投資額を下回る場合があります。また過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。

本資料は、ユナイテッドワールド証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。